

帝都の顔、煉瓦の東京駅、旧法務省 などに寄与した煉瓦の街、深谷

JR高崎線の深谷駅 なんと、JR東京駅にそっくり！
 というのは、東京駅に使われた 煉瓦は深谷市の日本煉瓦製造(株)で作られ、
 深谷駅から送り出されたのに因んでだという。

深谷と言えばネギというのが一般的には知られているところですが、レンガを連想する人は少ないのではないのでしょうか。しかし深谷には明治20年(1887年)から操業を続けている日本煉瓦製造株式会社というレンガ工場がありました。この会社は日本で最初の機械式レンガ工場で、郷土の偉人洪沢栄一翁らにより設立され、東京駅をはじめ明治から大正にかけて多くの近代建築物がこの会社の煉瓦を使い建設されました。

深谷市では、「洪沢栄一翁の顕彰とレンガを活かしたまちづくり」事業を推進しており、市の条例に定められた規格のレンガ調建築物を新築した方に、奨励金を交付しております。

この本市の事業にあわせるかのように、日本煉瓦製造株式会社の旧煉瓦製造施設が平成9年5月29日、日本の近代化の礎をなした重要な遺産として、国の重要文化財に指定されました。これを機にレンガのまち深谷をアピールし、日本の近代化に重要な役割を果たした煉瓦に対する理解の一助になることを期待しています。



JR高崎線の深谷駅 なんと、JR東京駅にそっくり！ というのは、東京駅に使われた煉瓦は深谷市の日本煉瓦製造(株)で作られ、深谷駅から送り出されたのに因んでだという。ただし、日本煉瓦製造の煉瓦は構造用として(800万個)、東京駅の 内部に使われている。表面の赤煉瓦は品川煉瓦や大阪窯業のもの

深谷の煉瓦史

「レンガのまち深谷」のレンガ史は、洪沢栄一翁が明治20年につくった日本煉瓦製造会社(後の日本煉瓦製造株式会社)の工場に始まります。日本煉瓦製造会社の工場は、ドイツ人技師チーゼを招いて操業を始めました。

ホフマン輪窯(わがま)6号窯、旧事務所、旧変電室、備前渠鉄橋が国の重要文化財に指定されています。現在は、市に寄贈され保存されています。

日本煉瓦製造会社でつくられたレンガは、明治時代の代表的レンガ建築である、司法省(現法務省)・日本銀行・旧東京裁判所・旧東京商業会議所・赤坂離宮・旧警視庁・旧三菱第2号館・東京大学・東京駅などに使われました。

また、ここで製造したレンガを輸送するため、工場から深谷駅まで4.2キロメートルにわたって引き込み線が敷設されましたが、途中の福川に架けられた鉄橋はポータル型プレートガーダー橋として現存する日本最古(明治28年)のもので、現在も大切に移設保存されています。

深谷市では、この日本煉瓦製造会社の設立をはじめ、日本近代産業の指導者であった洪沢栄一翁の功績を顕彰するため、翁の生地に近い、下手計に「洪沢栄一記念館」を設置し、翁の肉声テープをはじめ、多くの資料を展示しています。



「深谷市」は、埼玉県北西部に位置し、人口約14万3千人。東京都心から70キロメートル圏にあり、東は熊谷市に、南は嵐山町、寄居町に、西は美里町、本庄市に、北は群馬県の伊勢崎市、太田市に接しています。

また、北部は利根川水系の低地で、南部は秩父山地から流れ出た荒川が扇状台地を形成する平坦な地形となっています。

交通の面では、関越自動車道、国道17号線・同深谷バイパス・上武国道、国道140号線・同バイパス、国道254号線などがあり、広域間の基幹的役割を果たす道路として機能しています。また、地域の玄関口として関越自動車道花園インターチェンジが設置されているほか、嵐山小川、本庄児玉のインターチェンジに近接しています。また、鉄道はJR高崎線、秩父鉄道の2路線において駅を有するとともに、上越新幹線およびJR八高線が通過し、上越新幹線本庄早稲田駅にも近接していることから、東京都心方面、上信越方面、秩父方面への交通の要衝となっています。